目次

- ▶ 論作文について大切なこと
- ▶ 論作文の対策でわたしがやったこと
- ▶ 実際の論作文と照らし合わせて
- ▶ 面接の対策でわたしがやったこと
- ▶ 面接で聞かれたこと
- ▶ 集団討論1について
- ▶ 指導計画・面接票（東京都）の紹介・ポイント
- ▶ 質疑応答

論作文について大切なこと

- ・ ①教師としての志を表現・読み手に伝える
- ・ ②断定的な書き方
～を行う。～の取り組みをする。～させる。など
- ・ ③今の教育に何が求められているか
- ・ ④書き始め10行が決め手！
自分の考え・なぜそれが必要かを書く
- ・ ⑤生徒の様子を押さえているか・どう捉えているか
(スマホ・社会背景など)
- ・ ⑥2つの方策の関連性も記載(教科・学級)
- ・ 書き手の個性が表れている
- ・ 問題文を読み込み、問題に正対して答えられているか

年度初めの職員会議で、教務主任から「昨年度、学校で独自に実施した生徒対象の学習に関する調査の、「授業中に自分の考えを表現することができなかった。」の項目で、「できなかった」の回答が多くありました。また、各教科の教科主任からも、自分の考えはもっているものの、それを的確に表現できない生徒が多いという報告を受けています。そこで、今年度、各教科の指導において、「自分の考えを的確に表現する力を育む」を重点事項にしたいと思いを。」と報告があった。

□職員会議終了後、指導教員からあなたに、「先ほどの重点事項に基づいて、どのように学習指導に取り組んでいくか、具体的に考える必要がありますね」と話があった。

指導教員の発言を受けて、あなたならどのように学習指導に取り組んでいくか、志望する校種と教科等に即して、具体的な方策を二つ挙げ、それぞれ10行(350字)程度で述べなさい。また、その方策を考える上での問題意識やまとめ

⑤現状(すぐ
に答えを求
うとする)

③今の美術教育に何が必要か

7
行

□私が勤務する中学校では、自分の表現に自信が持てず、「ここは何色にしたら良いですか」「良い評価をとるためにはどう描けば良いですか」と聞いてくる生徒がいた。そこで、私は、生徒が将来社会で活躍するために必要となる互いに表現の違いを認め合うこと、多様性に気付かせてきた。今後も、自分の考えを的確に表現する力を育みながら、美術作品のよきは、様々な観点から見いだすことができることに気付かせ、自分としての感性や捉え方を発表し、それを互いに認め合い育てる機会を増やし、次の二つの学びを実践していく。

①→美術の授業において、様々な表現方法の教材や言語活動を取り入れる。

□自分の表現に自信が持てない生徒の多くが、自分は上手く絵を描けないと思っている。私は、単に上手く描くことだけが美術ではなく、自分なりの捉え方や感性を持ち、創造的に感性を巡らせそれを表現することが大切だと生徒に伝えてきた。そのために、様々な表現方法の教材を取り入れ、言語活動として鑑賞の時間を作った。例えば、抽象表現の教材では、「喜怒哀楽」「春夏秋冬」などをテーマに自分の今までの感情や経験を基に抽象的に色鉛筆で自由に描く。その後班に分かれ、工夫した点や表現したかったことを発表し合う。このように表現の幅広さを知り、自分の表現に自信を持たせ、発表の機会を増やす。そして、これらの学習を成り立たせるため、日頃から対話の環境づくりを行う。

10
行

3
行

②□責任感を持って発表する学級活動の成果をいかす。

□私は学級担任として、学級活動の中で生徒同士の対話を大切にし、生徒が主体的に行事や学級に参加するような働きがけをしている。例えば、各担任と委員会担当の教師が協力して学校の委員会活動の運営を行う。各委員会で取り上げる課題について、委員を中心に、生徒一人一人が当事者として意見を出し合う時間を持つ。グループ活動により、どのように参加すれば、達成感や成就感が得られるのか話し合い、他者の意見に良いアイデアがあることに気付かせる。このように、私は学級担任として、協力してこそ、良い成果が得られること、そのためにも普段からだれもが自分の意見を言うことができる環境をつくる。常に、生徒同士が互いを尊重し合い、それぞれの心情を認めて大切にし、意見を言いやすい雰囲気を作る。そして、それを美術の教科指導にいかす。

□私は、美術教師として自らも対話を大切に表現を磨き、自信をもって生徒が自分の考えを的確に表現できるよう、組織的に他の教師と協力して知識・技能を活用する機会を増やすなど、深い学びに向けた教育活動に取り組む。

②断定的な書き方

①教師としての志

⑥2つの方策の関連性

④自分の考え・なぜ必要か

論作文の対策で私がやったこと

- ▶ ①過去問で練習 添削をしてもらう
- ▶ ②同僚の先生に読んでもらう
- ▶ ③序論・本論・結論、文字数に慣れる
- ▶ ④引き出しを準備しておく
- ▶ 深い学び／学習の取り組み／自己肯定感／情報活用能力／社会参画 など
- ▶ ⑤学習指導要領を読み込む キーワード
 - ▶ 主体的・対話的で深い学び（なにを、どのように学ぶか）
 - ▶ 他教科との横断的な学習
 - ▶ 見方・考え方
 - ▶ 社会に開かれた教育課程
 - ▶ 習得→活用→探究

面接の対策で私がやったこと

- ▶ ① 茗溪会の教職対策講座に参加
- ▶ ② 対策講座で出会った仲間と練習・情報共有
- ▶ ③ 志望理由・自己PRを整理
- ▶ ④ 志望理由は、数ある自治体の中で「なぜ選んだのか」
他の自治体との違い・特徴・教育目標や求める教師像
- ▶ ⑤ ノートづくり
- ▶ 理想の教師像／魅力ある授業とは／確かな学力とは／一番大切なことは／魅力ある授業にするためには／体罰について など

面接で聞かれたこと（個人面接）

- ▶ 教員を目指したきっかけ・東京都の志望理由
- ▶ **生きる力**とは何か、美術でそれをどう身に付けるか
- ▶ サークル活動で困難だったこと・どうのり越えたか
- ▶ サークル活動を生徒との関わりにどう生かすか
- ▶ 美術館や博物館を利用した教育とは
- ▶ 年間指導計画に関して
 - ▶ いつごろ実施する予定か。
 - ▶ 社会と美術の関わりとは
 - ▶ **開かれた教育過程**を意識して計画をしているか
 - ▶ **ICT**を授業でどのように活用するか、またそれは何時間めか
- ▶ 保護者対応で大変だったこと
- ▶ 不登校生徒にどう対応したか、またその成果は

- ▶ 教員になるために努力していること
- ▶ 大学で頑張ったこと
- ▶ 単元の選定理由は？つまずきが予想されるところは？
- ▶ 席替えで～さんと一緒にいいと生徒が言ってきたら？
- ▶ いじめで保護者からクレームがあった時の対応
- ▶ などなど
- ▶ 面接官は3人（東京都の場合）
 - ▶ ①志望理由など
 - ▶ ②年間指導計画について
 - ▶ ③場面指導

集団討論

- ▶ 「良さや可能性を引き出し、自己肯定感を高めるための具体的な案をそれぞれ発表 → 研修会に参加していると想定し、1つか2つ具体的な案を出し、そのことについて話し合いなさい。
- ▶ 受験者A～Eさんまで。
- ▶ テーマを面接官の一人が読み、2分考える時間。考えがまとまった人から挙手をし、意見を発表。全員が意見を発表したら、討論スタート。
- ▶ 最後にまとめてくださいとアナウンスされ、代表者がまとめて終了。
- ▶ ★面接室に入る前に同じ班の人と話しておく！みんなで頑張ろうという気持ちで入室